

1987, 2, 東京。(昭和62年度追加)

65) 樋口清博, 杉山和子, 能澤明宏, 清水幸裕, 青山圭一, 松井俊二郎, 井上恭一, 佐々木 博, 多葉田祥代, 増山淳子, 西野主真: 慢性肝疾患および肝細胞患者末梢血リンパ球サブセット。第19回「消化器と免疫」研究会, 1987, 2, 東京。(昭和62年度追加)

66) 高原照美, 小島 隆, 井上恭一, 佐々木 博, 大島 章: アルコール性肝障害における III 型および IV 型コラーゲンの局在と, コラーゲン産生細胞に関する免疫電顕的検討。第7回アルコール代謝と肝研究会。1987, 4, 奈良。(昭和62年度追加)

67) 宮際 幹, 能澤明宏, 清水幸裕, 杉山和子, 樋口清博, 市田隆文, 井上恭一, 佐々木 博: 肝細胞癌に対する LAK 療法の試み。第62回日本消化器病学会北陸地方会, 1987, 6, 富山。(昭和62年度追加)

68) 佐々木 博: 特別講演; 肝組織浸潤リンパ球の電顕的研究。第22回「消化器と免疫」研究会, 1988, 8, 東京。

69) 佐々木 博, 高原照美, 中山義秀, 宮林千春: 「肝の線維化: 肝コラーゲンの構成と局在」, 第3回「肝の生化学」箱根シンポジウム, 1988, 7, 箱根。

◆ その他

1) 佐々木 博, 宮林千春, 清水幸裕, 高原照美: シンポジウム「薬剤性肝障害: 病理—電顕的立場から」, 第22回日本医学会総会誌: 364, 1988。

2) 佐々木 博, 樋口清博, 月城孝志, 青山圭一, 小島 隆, 井上恭一: 自己免疫性肝疾患における末梢血リンパ球サブセットの研究。厚生省難治性の肝炎調査研究班・昭和62年度研究報告書: 199-205, 1988。

3) 佐々木 博, 市田文弘, 山本祐夫, 黒木哲夫, 井上恭一, 康山俊学, 成瀬優知, 松原 勇: 原発性胆汁性肝硬変 (PBC) 全国調査結果 (第8報)。厚生省特定疾患難治性の肝炎調査研究班・昭和62年度研究報告: 161-171, 1988。

4) 斉藤清二, 吉田百合子, 加須屋 実: 大学生における上部消化管疾患(2)—心身医学的アプローチ—, 第25回全国大学保健管理研究集会報告書: 137-139, 1988。

5) 土屋雅春, 木原, 名倉 宏, 三浦総一郎, 藤倉一郎, 淀井淳司: パイエル板と免疫。消化器と免疫 19: 277-303, 1987。(昭和62年度追加)

皮膚科 学

教	授	諸	橋	正	昭
講	師	高	橋	省	三
講	師	丸	山	友	裕
助	手	桧	垣	修	一
助	手	関		太	輔
助	手	斉	藤	明	宏
助	手	長谷川		義	典
助	手	大津山			實
助	手	井 田			充
文部技官		松 永	憲	治	

◆ 著 書

1) 諸橋正昭: 扁平苔癬。「今日の治療指針1988年度版」日野原重明, 阿部正和編, 647-648, 医学書院, 東京, 1988。

2) 諸橋正昭: 痒疹 (かゆみ)。「今日の診断指針第2版」亀山正邦, 亀田治男, 高久史磨, 阿部令彦編, 51-52, 医学書院, 東京, 1988。

◆ 原 著

1) 諸橋正昭: 痤瘡の和漢薬療法に関する基礎的研究。Pharma Medica, 16(2) 増刊号: 168-176, 1988。

2) 諸橋正昭: 色素脱失症におけるメラノサイトの病的変化—電顕的解析—。富山医科薬科大学医学会誌, 1(1): 8-10, 1987。

3) 高橋省三: ランゲルハンス細胞の生物学的意義について。富山医科薬科大学医学会誌, 1: 5-7, 1987。

4) 桧垣修一, 春木智江, 諸橋正昭: 尋常性痤瘡に対する漢方方剤の臨床効果。皮膚科紀要, 83(14): 537-542, 1988。

5) 関 太輔, 諸橋正昭, 月城孝志, 山崎 徹: 紅皮症で発症し電撃の経過をとった悪性リンパ腫。Skin Cancer, 3: 226-230, 1988。

6) 関 太輔, 諸橋正昭: 毛嚢ムチン変性を伴った Eosinophilic Pustular Dermatitis —電顕的観察—。皮膚臨床, 30(1): 69-75, 1988。

7) パッチテスト研究班: Lily Aldehyde のパッチテスト至適濃度の検討および黒皮症患者における 2% benzyl salicylate 陽性率のまとめ。皮膚, 80 (増刊5): 150-157, 1988。

8) パッチテスト研究班: ヘアダイのパッチテスト成績および黒皮症患者の推移。皮膚, 80 (増刊5): 158-163, 1988。

- 9) 諸橋正昭, 高橋省三, 宮入宏之: 和漢薬の抗面皰作用に関する電顕的検討. 和漢医薬学会誌, 4(3): 240-241, 1987.
 - 10) 桧垣修一, 小西可南, 諸橋正昭: 痤瘡の和漢薬治療に関する基礎的研究(第3報) *Propionibacterium acnes* に対する和漢薬の抗菌力についての検討. 和漢医薬学会誌, 4(3): 458-459, 1987.
 - 11) 関 太輔, 籠浦正順, 春木智江, 前田哲夫, 高橋省三, 池田和夫, 諸橋正昭: ハムスター耳介皮脂腺の脂質合成に及ぼす和漢生薬の影響について. 和漢医薬学会誌, 4(3): 304-305, 1987.
 - 12) 佐貫大三郎, 高橋省三, 諸橋正昭: 和漢生薬の抗面皰作用に関する実験的検討. 和漢医薬学会誌, 4(3): 454-455, 1987.
 - 13) Maruyama T., Ito M., Shimizu N. and Sato Y.: Eccrine acrosyringium-associated epidermal nevus. Proc. 5th Korea-Japan Joint Meeting Dermatol., 163-166, 1988, Cheju.
 - 14) Seki T., Kagoura M., Haruki T., Maeda T., Takahashi S., Ikeda K. and Morohashi M.: A measurment of lipogenetic activities in sebaceous glands of hamster ear: An evaluation of the method and effects of Kampo drugs. Proc. Jpn. Soc. Invest. Dermatol., 12: 155-156, 1988.
 - 15) Takahashi S., Kagoura M. and Morohashi M.: An electron microscopic study of lipodystrophia centrifugaris abdominalis, with special reference to fibrous long spacing fibers. J. Clin. Electron Microscopy, 20: 668-669, 1987.
 - 16) 高橋省三, 籠浦正順, 諸橋正昭: Erythrokeratoderma variabilis. 第3回角化症研究会記録集, 77-78, 同スライド集, 34-36, 1988.
 - 17) 丸山友裕, 伊藤雅章, 清水直也, 勝海 薫: チロジン血症II型にみられた角化異常について. 第3回角化症研究会記録集, 11-14, 同スライド集3-6, 1988.
 - 18) Morohashi M.: Skin diseases and Japanese Kampo medicines-From the viewpoint of modern medicine. Proc. First China-Japan Joint Meeting Dermatol., 23-24, 1988, Beijing.
 - 19) Morohashi M. and Takahashi S.: An electron microscopic study of acne, with special reference to abnormal follicular keratinization and *Propionibacterium acnes*. Proc. First China-Japan Joint Meeting Dermatol., 120, 1988, Beijing.
 - 20) Seki T., Takahashi S. and Morohashi M.: The effect of drugs on lipogenesis of sebaceous glands of hamster ear. Proc. First China-Japan Joint Meeting Dermatol., 119, 1988, Beijing.
- ◆ 症例報告
- 1) 桧垣修一, 斉藤明宏, 高橋省三, 諸橋正昭: 皮膚転移を伴った興味ある malignant trichilemmoma. 皮膚科紀要, 83(3): 291-298, 1988.
 - 2) 関 太輔, 諸橋正昭, 勝山 豪, 古田 勲: Riga-Fede 病の3例. 臨床皮膚科, 42(2): 107-110, 1988.
 - 3) 松井千尋, 諸橋正昭: Crow-Fukase 症候群. 皮膚病診療, 10(5): 427-430, 1988.
- ◆ 総 説
- 1) 諸橋正昭: 痤瘡. カレントセラピー, 6(12): 54-58, 1988.
 - 2) 諸橋正昭: 痤瘡の発症病理と治療. 日本臨床皮膚科医学会会報, 15: 2-6, 1988.
 - 3) 諸橋正昭: Crow-Fukase 症候群の多彩な皮膚症状. 医学のあゆみ, 145(1): 46, 1988.
- ◆ 学会発表
- 1) 諸橋正昭: 皮膚疾患と和漢薬—現代医学からのアプローチ (特別講演). 第1回日本・中国合同皮膚科学術大会, 1988, 9, 北京.
 - 2) 諸橋正昭: Ultrastructure of the skin (特別講演). 第1回中華医学会華東皮膚科学術大会, 1988, 5, 上海.
 - 3) Morohashi M.: Pathobiology of the sebaceous glands. 上海医科大学, 1988, 5, 上海.
 - 4) Seki T., Haruki T., Takahashi S. and Morohashi M.: The effect of drugs on lipogenesis of epidermal cells of hamster ear. 8th Regional Conference of Dermatology (Asian - Australian), 1988, 6, Bali, Indonesia.
 - 5) 関 太輔, 高橋省三, 諸橋正昭: ハムスター耳介皮脂腺の脂質合成に及ぼす薬物の影響. 第1回日本・中国合同皮膚科学術大会, 1988, 9, Beijing.
 - 6) 諸橋正昭: 痤瘡と和漢薬—現代医学からのアプローチ (特別講演). 第87回日本皮膚科学会サテライトシンポジウム—皮膚疾患と漢方薬—1988, 4, 熊本.
 - 7) 諸橋正昭: 金属アレルギーと歯科 (特別講演). 昭和63年度日本歯科理工学会中部研究集会, 1985, 8, 富山.
 - 8) 高橋省三, 諸橋正昭, 嶋尾 智, 岡田敏夫: 先天性表皮水疱症の1例, 特に電顕所見について. 第87回日本皮膚科学会学術大会, 1988, 4, 熊本.
 - 9) 籠浦正順, 高橋省三, 諸橋正昭: Erythroker

- atodermia variabilis の 1 例. 第87回日本皮膚科学会学術大会, 1988, 4, 熊本.
- 10) 高橋省三, 諸橋正昭: ハムスター耳介毛包上皮に対するテストステロンの効果, 特にその電顕的検討. 第13回日本研究皮膚科学会学術大会, 1988, 7, 福岡.
 - 11) Seki T., Haruki T., Takahashi S. and Morohashi M.: The effect of drugs on lipogenesis of hamster, with special reference to Kampoh crude drugs. 第13回日本研究皮膚科学会学術大会, 1988, 7, 福岡.
 - 12) 桧垣修一, 長谷川義典, 諸橋正昭: 痤瘡の和漢薬治療に関する基礎的研究(第4報), 第5回和漢医薬学会学術大会, 1988, 8, 福岡.
 - 13) 関 太輔, 春木智江, 高橋省三, 諸橋正昭: ハムスター耳介表皮細胞の脂質合成に及ぼす和漢生薬の影響. 第5回和漢医薬学会学術大会, 1988, 8, 福岡.
 - 14) 小黒啓子, 小林聡也, 丸山友裕, 山本綾子, 佐藤良夫: 経過中に一部自然排泄をみた毛母腫. 第12回日本小児皮膚科学会, 1988, 6, 東京.
 - 15) 斉藤明宏, 籠浦正順, 高橋省三, 諸橋正昭, 沼田このみ: 眼瞼腫脹を初発とした T cell lymphoma の 1 例. 第7回皮膚リンフォーマ研究会, 1988, 12, 浜松.
 - 16) 高橋省三, 籠浦正順, 諸橋正昭: Erythrokr atodermia variabilis. 第3回角化症研究会, 1988, 6, 東京.
 - 17) 丸山友裕, 伊藤雅章, 勝海 薫: チロジン血症 II型にみられた角化異常について. 第3回角化症研究会, 1988, 6, 東京.
 - 18) 長谷川義典, 桧垣修一, 籠浦正順, 諸橋正昭: ヒルドイドによる接触皮膚炎の 1 例. 第13回パッチテスト研究班総会, 1988, 6, 東京.
 - 19) 丸山友裕, 諸橋正昭, 伊藤雅章, 清水直也: アミロイド沈着を伴った汗孔角化症—その角化異常とアミロイドの由来について—第39回日本皮膚科学会中部支部学術大会, 1988, 11, 名古屋.
 - 20) 長谷川義典, 桧垣修一, 高橋省三, 諸橋正昭: 妊娠性疱疹の一例. 第39回日本皮膚科学会中部支部学術大会, 1988, 11, 名古屋.
 - 21) 大津山 實, 丸山友裕, 高橋省三: 掌蹠角化症. 第24回日本皮膚科学会北信越合同学会, 1988, 11, 福井.
 - 22) 斉藤明宏: Beçhet 病(疑い例). 第24回日本皮膚科学会北信越合同学会, 1988, 11, 福井.
 - 23) 井田 充, 関 太輔: 角層下膿疱症の 1 例. 第24回日本皮膚科学会北信越合同学会, 1988, 11, 福井.
 - 24) 関 太輔: Unilateral erythromelanosis follicularis faciei の 1 例. 第327回日本皮膚科学会北陸地方会, 1988, 2, 金沢.
 - 25) 長谷川義典, 桧垣修一: アロエ入り化粧クリームが原因と考えられた pigment contact dermatitis の 1 例. 第327回日本皮膚科学会北陸地方会, 1988, 2, 金沢.
 - 26) 丸山友裕: 汗孔角化症. 第328回日本皮膚科学会北陸地方会, 1988, 6, 金沢.
 - 27) 長谷川義典, 桧垣修一: ケラトアカントーアの 1 例. 第328回日本皮膚科学会北陸地方会, 1988, 6, 金沢.
 - 28) 大津山 實, 丸山友裕: 播種型色素性蕁麻疹の 1 例. 第328回日本皮膚科学会北陸地方会, 1988, 6, 金沢.
 - 29) 大津山 實, 丸山友裕: 口腔粘膜と爪に限局した扁平苔癬. 第329回日本皮膚科学会北陸地方会, 1988, 9, 福井.
 - 30) 長谷川義典, 桧垣修一: ヒルドイド軟膏による接触性皮膚炎の 1 例. 第329回日本皮膚科学会北陸地方会, 1988, 9, 福井.
 - 31) 井田 充, 関 太輔: 好中球性紅斑. 第329回日本皮膚科学会北陸地方会, 1988, 9, 福井.
 - 32) 関 太輔, 井田 充, 松本録一: ミノサイクリン, インドメサシンの併用療法が有効であった eosinophilic pustular dermatosis の 1 例. 第331回日本皮膚科学会北陸地方会, 1988, 12, 金沢.
 - 33) 春木智江, 井田 充, 松本録一: polymorphic pemphigoid. 第331回日本皮膚科学会北陸地方会, 1988, 12, 金沢.
 - 34) 大津山 實, 丸山友裕: MCTD. 第331回日本皮膚科学会北陸地方会, 1988, 12, 金沢.
 - 35) 関 太輔, 諸橋正昭: 特異な臨床像を呈する erythromelanosis follicularis faciei の 2 例. 第184回日本皮膚科学会岡山地方会(野原望教授退官記念学会)1988, 5, 岡山.
 - 36) 鈴木敏彦, 丸山友裕, 諸橋正昭: ウズラ尾腺における蛋白の動態について. 第106回日本獣医学会総会, 1988, 11, 大阪.
 - 37) 竹之内辰也, 竹重量子, 奥田長三郎, 伊藤雅章, 丸山友裕: 毛孔性紅色秕糠疹の 1 例. 第271回日本皮膚科学会新潟地方会, 1988, 10, 新潟.
 - 38) 桧垣修一, 春木智江, 諸橋正昭: 当科における和漢外来の現況(第6報). 第5回和漢医薬学会学術大会, 1988, 8, 福岡.

- 39) 山本綾子, 丸山友裕, 松原三希子, 山口茂光:
新潟大学皮膚科における最近10年間の悪性黒色腫。
第17回日本形成外科学会新潟地方会, 1988, 2,
新潟。

◆ その他

- 1) 諸橋正昭: アルカリ性石鹼はアトピー性皮膚炎患者の症状悪化の要因に。Mebio, 5(3): 9, 1988.
- 2) 諸橋正昭: 白斑様色素脱失斑のある悪性黒色腫患者の予後は良好。Mebio, 5(8): 6, 1988.
- 3) 諸橋正昭: 薬剤による Pseudolymphoma syndrome を念頭に。Mebio, 5(10): 6, 1988.
- 4) 諸橋正昭: 各種扁平上皮癌をはじめ天疱瘡や天疱瘡類似疾患で血清 SCC-RAG 値が上昇。Mebio, 5(11): 6, 1988.
- 5) 諸橋正昭: 毛乳頭「成分, 構造, 役割」。The Skin Care, No.17: 2-3, 1988.

小 児 科 学

教 授	岡 田 敏 夫
助 教	鈴 木 好 文
講 師	樋 口 晃
講 師	小 西 徹
助 手	嶋 尾 智
助 手	山 谷 眞
助 手	原 正 則
助 手	稲 場 進
助 手	村 上 巧
助 手	洲 崎 健
助 手	足 立 雄 一
文部技官	永 田 仁 志

◆ 著 書

- 1) 岡田敏夫: 頻尿。「診断・治療マニュアル」阿部裕他編, 1074-1075, 金原出版, 東京, 1988.
- 2) 岡田敏夫: チャンス蛋白尿, 血尿のスクリーニング—小児科の立場から—。「腎炎・ネフローゼ (COMMON DISEASE SERIES No.5)」長沢俊彦編, 9-16, 南光堂, 東京, 1988.
- 3) 岡田敏夫: 腎炎・ネフローゼ。「今日の診断指針 (第2版)」亀山正那他編, 1554-1556, 医学書院, 東京, 1988.
- 4) 岡田敏夫: 症状 (血尿, 蛋白尿, 血尿蛋白尿例, 白血球尿)。「小児腎臓病ハンドブック」和田博義, 伊藤克己編, 1-14, 南光堂, 東京, 1988.
- 5) 鈴木好文: 尿路感染症。「小児腎臓病ハンドブッ

ク」和田博義, 伊藤克己編, 168-176, 南光堂, 東京, 1988.

◆ 原 書

- 1) 樋口 晃, 馬瀬大助, 浅田礼子, 鈴木好文, 岡田敏夫: 強制栄養により良好な発育をみた乳児期腎不全の CAPD 療法例。日児誌 92: 1351-1355, 1988.
- 2) 樋口 晃, 鈴木好文, 馬瀬大助, 稲場 進, 浅田礼子, 岡田敏夫: 長期透析患児における血漿アミノ酸の推移。小児腎不全研究会誌 8: 97-99, 1988.
- 3) 稲場 進, 樋口 晃, 馬瀬大助, 浅田礼子, 鈴木好文, 岡田敏夫: 当科における小児慢性腎不全10例の経験。小児腎不全研究会誌 8: 93-96, 1988.
- 4) 稲場 進, 高井里香, 浅田礼子, 岡田敏夫: 乳幼児期に発見された膀胱尿管逆流現象の臨床的検討。昭和62年度厚生省心身障害研究報告書 265-268, 1988.
- 5) 稲場 進, 大嶋忠幸, 浅田礼子, 馬瀬大助, 樋口 晃, 鈴木好文, 岡田敏夫, 山田和夫: IgA 腎症における尿蛋白分析像と組織所見。日本小児腎臓病学会雑誌 1: 75, 1988.
- 6) Hara M., Asada R., Irene Miura K., Mase D., Higuchi A., Tanizawa T., and Okada T.: Glomerulonephritis with absent glomerular basement membrane antigens and no family history of renal diseases. Am J Nephrol. 7: 69-70, 1987.
- 7) Hara M., Okada T.: Immunohistopathology of glomerular basement membrane antigens. Proc. of 2nd Niigata Symposium of nephrology. Nisimura Co., Ltd 121-141, 1986.
- 8) 浅田礼子, 稲場 進, 馬瀬大助, 高井里香, 樋口 晃, 鈴木好文, 岡田敏夫, 山田和夫: Alport 症候群類似疾患 8 例の臨床的検討。日本小児腎臓病学会雑誌 1: 32, 1988.
- 9) 松倉裕喜, 鈴木好文, 岡田敏夫: 腎疾患患児における尿中酸性フォスファターゼの測定とそのアイソザイム分析。日腎誌 30: 85-87, 1988.
- 10) 石本二見男, 柴崎敏昭, 村井誠三, 児玉和也, 大野岩男, 五味秀穂, 松田弘之, 中野広文, 松本博, 宮原 正, 岡田敏夫, 鈴木好文: 起立性蛋白尿における尿蛋白構成成分に関する研究。日腎誌 30: 23-31, 1988.
- 11) 内記三郎, 松倉裕喜, 鈴木好文, 西野主真, 松